

# 第3回宇治市教育振興基本計画策定委員会会議録

日 時 令和3年10月22日（金） 午後3時00分 開議

場 所 宇治市生涯学習センター 一般研修室

## 会 議 日 程

1. 開会
2. 協議 「第2次宇治市教育振興基本計画（素案）」について
  - ・「教育理念」について
  - ・「目指す人間像」について
  - ・「取り組む施策」について
3. その他
4. 閉会

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

（策定委員）

委員長	京都教育大学教授	榊原 禎 宏	副委員長	北宇治中学校長	吉田 英 司
委 員	京都文教短期大学准教授	桑原 千 幸	委 員	宇治市連合育友会長	丹羽 寛 美
委 員	宇治市連合育友会副会長	竹 内 理	委 員	菟道小学校長	島田 尚 明

（事務局）

部 長	伊賀和彦	副 部 長	上道貴志
教育支援センター長	林口泰之	教育総務課長	栗田益典
学校管理課長	吉田健一郎	生涯学習課長	齊藤政也
学校教育課副課長	藤田祥尚	教育支援課副課長	武田義博
教育総務課企画庶務係長	北池頭子	教育総務課企画庶務係	前田圭祐

開 会 （午後3時00分）

### 1. 開会

委員長が第3回「宇治市教育振興基本計画策定委員会」の開会を宣言する。

## 2. 協議 「第2次宇治市教育振興基本計画（素案）」について

事務局から「第2次宇治市教育振興基本計画（素案）」の内容を説明した。

P15「目指す人間像」について、「学校がどのような人間に育ててくれるのかわかる方が安心できる。」「郷土色をアピールしてもよいのではないか」「社会変化や多様性を認めていくことも大切だと感じている。」というご意見を頂いたため、それらを反映させた人間像の案を記載している。

P18 (1)「小中一貫教育を柱とした教育の推進」について、「現計画で宇治市は小中一貫教育を掲げてきた。今後も小中一貫教育を推進するなら、計画の中で触れなければならないと感じる。」というご意見を頂いたが、市教委としても小中一貫教育を進めていかななくてはならないと考えているため、対応する施策を記載している。

P19 (4)「学びに向かう人間性等の涵養」について、「班で集まって回答を導き出す等、周りとの助け合う経験をしてほしいと思う。」というご意見を頂いたため、対応する施策を記載している。

P20 (5)「多様なニーズに応じた教育の充実」について、「国際理解教育という分掌はあるが、なかなかできていないのが現状である。」というご意見を頂いたため、対応する施策を記載している。

P32 (1)「教育の機会均等の保障・充実」及び(2)「教職員の指導力向上」について「多様な子どもを含めた教育環境の整備の必要があると感じる。」というご意見を頂いたため、それぞれ対応する施策を記載している。

P33 (6)「学校施設・設備の計画的な整備」について、「新型コロナウイルス感染症に関して、施策の中では対策等を入れていかないといけないと感じている。」「タブレットが1人1台行き渡ったことで、それぞれの考え方で調べて、他の子どもに伝えられるというのはよい学習だと感じている。」というご意見を頂いていたため、対応する施策を記載している。

P36 (1)「地域学校協働活動の推進」について、「今後はコミュニティ・スクール等を通して、地域の様々な人と関わることは必要な方向性だと思う。」というご意見を頂いたため、対応する施策を記載している。

P37 (1)「地域学校協働活動の推進」について、「家庭の教育力について、学校に対してどちらかと言うとお客さん感覚の保護者が多い。子どもたちが地域社会に溶け込み、地域に育ててもらっているということを知れば、保護者の考えも変わるのではないか。」というご意見を頂いたため、対応する施策を記載している。

P45 (3)「歴史資料館の充実・活用」について、「宇治が大好きな子どもが育てば、宇治のために何かしようという考えにつながる。そういう人材は大人になってから社会教育に参加しようと思うので、よい循環になる。」というご意見を頂いたため、対応する施策を記載している。

また、生涯学習審議会では、OECDのEducation2030を参考にしてほしいとの意見があり、その内容を取り入れている。

<目指す人間像について>

[委員] 目指す人間像について、前回「よりよい明日の宇治」という文言を入れた方が良いと意見を出したことに対して、「よりよい人生と社会を創り出せる人」と提案いただいている。これでは意味の範囲が広いので、わかりにくいと感じた。

[委員] 前回「世界に誇る明日の宇治」という案が出たことに対して、「グローバルな視点に立ち」という言葉を提案いただいているが、施策の中にグローバルな視点が出てこない。目指す人間像には、外に出ていく子どもを育てることが反映されている方が良い。

[委員] 現行計画では、宇治市という中だけでとどまっている印象があるためグローバルなイメージを追加する必要があるという意見を出したが案に反映されている。ただ、宇治市教育委員会の計画なので、宇治という言葉が入った方が良くも感じる。

[委員] 京都府でも同様の議論があるかと思うが、子どもが将来京都や宇治に住み続けるとは限らない中で、どこに住もうと、ふるさと宇治を携えて、それを思い出や心のよりどころにとどまらず、その素晴らしさを商品、経営、社会参加に生かして発信していくことが大切であるという意見が複数あった。世界に発信するなり誇りを持って社会参加に活かす。というような意味合いが入ってもよいかと思う。

<取り組む施策について>

[委員] 施策 6 について、「循環型生涯学習」がわかりにくいという指摘をしたが、「市民が学び合う」というのはニュアンスが変わっているのではないか。学び合うという表現は、受け身的な意味になっているのではないか。

また、冒頭の事務局からの説明で施策 7 に循環という言葉がでてくるとあったが、その理由は何か。

[事務局] 循環型という言葉の意味は自分が教わるだけではなく、次は教える側になって伝えるというイメージであるが、それをわかりやすい言葉にした。施策を見直したわけではない。

また、施策 7 について、「宇治が大好きな子どもが育てば、宇治のために何かしようという考えにつながる。そういう人材は大人になってから社会教育に参加しようと思うので、よい循環になる。」と説明させてもらった。宇治が好きな子どもを育て、愛着心をはぐくむことを表している。

[委員] その考え方は、議論とずれている感じが否めない。委員が言っているのは、世界に誇るべき歴史や文化・伝統を持ち、世界的視野で発信するというものであって、宇治を大事にする、宇治に思いをはせるというのも良いが、違う側面の指摘であるので、意見としてあげたいと思う。

[委員] 施策 7 の説明文について、施策 6 については、教育の内容になっているが、7 だけ総合計画の内容のようになっており、どのように教育と関わってくるのかわかりにくい。

[委員] P15 の施策共通の視点について、前回案は、施策 1～5 にかかっているようになっているが、生涯学習審議会では施策 6 と 7 にも関わっているのではないかという意見があった。施策 6 に関して、市民同士の学び合いは重視されているが、学校教育とか特別支援教育・幼児教育との関わり合いはどうか。そういったところが記載されていないので、全体から 6 と 7 が外れたように感じてしまうのではないか。

[委員] P15 について、模式化し一体感を持たせた方が良い。

[委員] 生涯スポーツについて、現行計画では入っているが、次期計画には入っていないが理由は何か。

[事務局] 生涯スポーツは教育部から市長部局に所管が移ったため、市長部局での計画に入る。

[委員] 施策 1～5 について、教育するという考え方になっている。課題解決学習や対話的で深い学び、個々の施策の中ではあるのかもしれないが、スローガンとなる部分は教育ばかりである。それぞれの人が持つ潜在的な力を期待しながら、エンパワーメントやレジリエンス、コミュニケーションの力を教育によって促すだけではなく、その人達が自分で世界や社会と出会って、他者と協力し、多様性を認めながら世の中を作っていくというスタンスが、P15 に見えない。京都府の振興プランでは、施策 1 では、「豊かな学びの創造」、施策 2 では「多様性の尊重」、施策 4 では「学びを支える教育環境の整備」となっている。京都府と同じにした方が良いということではないが、人材育成や資源開発だけではなく、それぞれの多様性を踏まえながら、おだやかに、ゆっくりとこれまでなしとげてきた開発に感謝しながら、また、多様性を認め合いながら、ひとつの軸だけではなく、軸自体を複合化していくようなことも視野に入れ、学習をどうやって促すかという視点に立たなければならない。学習を促すために教育は何ができるのかという考え方を基に学力や体力や環境整備などを考えていくべきなのではない

か。

[委員] 人間像のグローバルの議論にも関わるが、どういう学びをするかということが施策にでてこないなので、理念と人間像は、今の計画の続きとなっているが、人材を育成するために、子どもを育てるために、どうするのか、何を推進し支援するかを視点に持つ必要があると感じた。

[委員] 批判的思考（クリティカルシンキング）、メタ認知（より高い視点から認知すること）などの発想を入れていく、同じ場所や時間を過ごしているが、それぞれの世界認識があって、人によって物のとらえ方は同じではなく、見方が違うので、多様性を認めることができる。今の施策もなくならないと思うが、何がきっかけで学びたくなるかは様々なので、遅咲きの子等に着眼することによって、いろんな視野が持てるようになる。コミュニティ・スクールもそうで、地域や保護者も関わることによって、こういった学びの方法があるのかという気づくことができる。学校的な見方を残しながらも、それだけでない人の育ち、関わり方を大事にしようという理念をもっと出すべきだと思う。教育を推進するのが目的ではないはずである。それぞれの多様な学習を促すために教育は何ができるのかというストーリーにするべきである。この考え方は生涯学習にも通じるのではないかと思う。

[委員] グローバル、コミュニティ・スクール、ICTなど、様々な言葉がでていますが、具体的に何をするのかというのが施策の中で見えづらい。情報検索ができるようにするという話なのであれば、本当に端末1人1台必要なのかという話にもなる。

[委員] これまで2回やってきたが、その議論がもったいないと感じる。  
施策6と7にもつながるが、PBL（課題解決型学習）は中学生が対象となると思うが、自分たちの学区や地域をどうしたらよくなるかという問いを立てて、答えが無いものを探求していくので、彼らが発見していくためのサポートや、環境整備をすることが第1である。そもそも何が問題なのかという問題の発見から、それを深めたり理解し、それぞれの方法で問題に迫っていく行動力が大切である。

[委員] 教育の推進に関しては、はじめは違和感なかったが、改めてご意見を聞くと推進ではないと感じる。

[委員] 京都府の計画も教育推進ではない。各施策に入る前に、施策の考え方の検討をお願いしたい。

[事務局] 推進プランということで、何を推進するのか検討したが、他の言葉を検討する。特に、理念でうたっているような内容が反映されるように検討する。

[委員] 推進というと、力強く進めていくというイメージが強いが、支援する、サポートする、一緒に探求していく、ナビゲーションしていく、共に育っていく、共生という言葉もある。そういうことになるように推進するというのが良い。そこに、子どもも含めたそれぞれの存在の固有性、ポテンシャル、潜在能力を引き出すことが大切である。随伴者や伴走者などのイメージを含めた指導者になるべきなのではないかと思う。

また DX（デジタル技術による社会変革）という言葉があるが、ICT は技術のことである。ICT の活用は 2033 年には古いのではないか。

[委員] ICT 活用は当然のもので、課題解決にどう結び付けるかということが大事である。論理的に課題解決するための目標を立てないといけない。宇治は宇治学で地域、家庭と連携し、つながると思うので、情報を分析するだけでなく、発信していける子どもにならないといけないと思う。自分で課題解決して発信することまで目標に入れば良い。

[委員] 鉛筆を活用して学習するとは言わない、ICT も鉛筆やノートのように使うようになる。DX も進んでいるので、今のままの記述ではいけないと感じる。

[委員] ICT 活用について、子どもたちの中では、LINE をしながらオンラインでゲームしている。媒体はゲーム機やパソコンであるが、コロナ禍でそういった動きがもう一歩進み、今や当たり前になっており、子どもたちの方が先に進んでいるように思う。

[委員] 共通の視点においた理由は、全ての施策に共通の視点が入っているというところからだと思うが、ICT については、共通の視点から消してしまっていて、それぞれの施策の項目の中に入れてよいくのではないかと思う。

[委員] 共通の視点の位置付けがわからない。ツールの話と分野の話になっているのでわかりづらい。

[委員] 共通の視点は 1~7 の上位に位置する特に強調して置いておきたいという意味か。

[事務局] 現行計画は特別支援等の内容について、それぞれの施策に入っていたが、次期

計画では、共通の視点にそれらをまとめた形にしている。

[委員] 共通の視点に書かれていることと、施策との位置関係。また、ICTでよいのかを検討していただきたい。

[委員] P18の現状と課題の2つ目は、学校現場では「基礎的・基本的な知識・技能」と使っているので、修正をお願いします。

今後内容が変わるかもしれないが、P19(2)④交換授業という言葉は具体的すぎるので、他の書きぶりと合わせるべきである。

[委員] 昨今Wi-Fi環境が整備されているが、公民館等に整備できているか。

[事務局] 今後は公衆Wi-Fiを整備したいと考えているが、今のところは、モバイルルーターを整備している。

[委員] 取組について、どれぐらい具体的に書くべきか基準はあるのか。府の計画と同じようなレベルで書くのも良いのではないか。

[事務局] 12年の計画なので、ICTの表現も何年かしたら古臭いと思われるかもしれないが、現在ICTの整備を行っている段階なので、使わざるをえないと考えている。また市の総合計画の書き方を見比べながら書かなければならないと感じている。中身の部分について、12年間の計画といえど、この2、3年で見えている取組については具体的になっている。バランスを見ていきたいと考えている。人間像について、世界に誇るをグローバルな視点に変えているが、このあたりが決まらないと、その後の表現も難しいので、ご意見いただければと思う。

[委員] 学ぶ、潜在能力、エンパワーメント、レジリエンス等の言葉は未来志向の言葉なので、計画に反映されても良いのではないかと思う。

[委員] 施策5に地域が出てこない。また、目指す人間像に社会が2回でてくるが意味が同じなのか違うのかわからない。

[委員] グローカルという言葉があったかと思うが、そういう発想も活かせるのではないか。

[委員] ネットを使ったいじめの危険性について、学校でどのように伝えているのか。

[委員] 中学校の年度初めに、携帯会社の方を講師に招いて伝えたり、個々のトラブル

対応を行っている。

[委員] 生涯審では家庭教育をしていかないといけないという意見もある。

**3. その他** 事務局から日程調整に関する事務連絡を行う。

**4. 閉会** 委員長が閉会を宣言する。

**閉 会** (午後5時00分)